

## 社会学部学術講演会

Gan Xi Fen  
甘 惜分先生について

1993年5月12日(水)に、中国人民大学新聞系教授兼中国人民大学輿論研究所々長・甘惜分先生の「中国人のものの考え方について」と題する社会学部学術講演会が第5別館308号室において開催された。夕方からは、社会学部特別研究会において「中国における世論調査研究の現状と課題」と題する研究報告も拝聴することができた。貴重な御講演を賜った甘惜分先生に改めて厚く感謝申し上げます。

甘惜分先生は、1916年生まれ、延安マルクス・レーニン学院大学院生修了。1938年から1954年には中国国営通信社新華社記者、編集担当、1954年～1958年北京大學新聞専攻副教授を歴任、1958年に中国人民大学新聞系副教授、その後同大学教授となり、1978年には同大學新聞系修士課程指導教授、1983年からは同博士課程指導教授となり、現在に至っている。また、1986年より現在まで中国人民大学輿論研究所々長も兼務され、中国における新聞研究、世論調査研究の権威であり、まさに重鎮として活躍しておられる。

主著に『新聞理論基礎』、『新聞論争三十年』などがあり、主な編著に『新聞学大辞典』などがある。(他に、論文多数。)

この度の甘先生の御来学により関西学院大学と中国人民大学との学術交流がいっそう発展し、相互の世論調査研究の交流も益々深まるであろうことが大いに期待される。甘惜分先生のご健勝を心から祈りつつ。(文責・津金澤聡廣)

## 中国人のものの考え方について

中国人民大学教授  
中国人民大学輿論研究所々長 甘 惜 分  
劉 琳 訳

関西学院大学側のご希望により、今日の講演では、中国人のものの考え方について話したいと思う。これは、非常に重要で、また、おもしろいテーマである。いかなる民族も、その民族独特のものの考え方を持っている。これは、単に考え方だけの問題ではなく、その民族の性格や歴史にも影響を及ぼすものである。ものの考え方は、多くの要素から形成されているが、現在の中国人のものの考え方は、次の3点に由来していると思われる。第一は、中国の昔からの伝統文化である。第二は、中国に根をおろしたマルクスの唯物弁証法である。第三は、数十年來、中国の革命が模索してきた経験と教訓である。以上は、私の個人的見解であり、代表的な見解ではない。ただ、いかなる民族においても、ものの考え方は一種類に限られているわけではなく、たくさんの考え方が並存し、競合するというのをここで強調しておきたい。

今日は、多くの点について話したいと考えていたが、時間の都合で、そのうちの最も大切な問題だけをとりあげて話すことにする。周知のように、現在の中国が直面している最も大きな問題は、人口の膨張である。中国の人口は、すでに12億に近いのであるが、人口の80%を占める農民のなかには、一人っ子政策に不満を持ち、それに従わずに多くの子供が欲しいと思う人々もいる。このことから、これらの農民が全体状況(全国)のことを考えず、ただ局部のこと、すなわち自分の家庭のことだけを考えていることがわかる。子供を生むのは自分の家庭だけの問題であり、他人が干渉することではないというのが彼らの考え

必要性を唱えられ、学内においてもそれを実践されてきました。学部での人文演習、大学の総合教育科目としての総合コース「平和論」、そして学部での講演会など先生の御声咳に私どもも接する機会がございました。ある時事雑誌に出た数を基にすれば、民族・宗教・国境等々を原因とする紛争は1993年末には世界各地で合計40にもものぼるとか、ジョイス先生の平和への希求と祈りは私どもにも身に痛く感じられるものであります。

終りになりましたが、ジョイス先生の教職員や学生に対する長年の御高導、御芳情に改めて感謝申し上げますとともに、今後の先生の御健康と御活躍を心からお祈り申し上げます。

# 学生アルバイトに関する実証的研究（その2）

—中京以西アルバイト学生4000人の実態・意識調査結果の分析—

遠 藤 惣 一  
牧 山 正 英  
西 山 美 子

## 目次

### はしがき

#### 1. 調査の目的、および今回調査の調査結果概況 について

#### 2. 調査の対象と方法

#### 3. 調査結果の分析

##### (1)調査結果の概要（遠藤）

##### (2)国公立大・私立総合共学大・私立女子大・私立 女子短大別（西山）

##### (3)学年別（西山）

##### (4)居住〔自宅・自宅外〕別（西山）

##### (5)奨学金受給の有無別（西山）

##### (6)アルバイトの職種別（牧）

##### (7)アルバイトは学業の妨げか（牧）

##### (8)学業とアルバイトのウェイト（牧）

##### (9)アルバイト生活全体満足度（牧）

#### 4. 暫定的まとめ：多変量解析からみた大学生ア ルバイトに働く諸要因の分析

##### (1)林数量化Ⅲ類による全調査回答のパタン分類 （遠藤）

##### (2)クラスター分析からみたアルバイトの要因間関 係（西山）

##### (3)林数量化Ⅰ類による「アルバイト収入」に関す る要因分析（遠藤）

##### (4)林数量化Ⅱ類による「アルバイト生活全体満足 度」に関する判別分析結果（牧）

##### (5)林数量化Ⅰ類による「アルバイトは学業の妨げ になるか」に関する要因分析（遠藤）

#### 5. 資料（西山）

##### (1)調査票

##### (2)単純集計結果

##### (3)クロス集計表

### はしがき

本調査報告は、1993年度文部省科学研究費助成金を受けて調査を実施、分析を行ったものである。本報告の表題が「学生アルバイトに関する実証的研究（その2）」となっているのは、1988年6月に学生アルバイトに関する実証的研究の先行調査として、関西学院大学社会学部学生を調査対象とした調査分析を行い、その調査報告を（その1）としたからである。前回の1988年調査（有効回収票数1828、回収率は学部在籍学生の80%）をプリテストとして、調査票の内容構成を整備して今回の調査を計画し、調査を実施した。なお、1988年6月調査の分析結果報告は、本論の本文に記したように、『関西学院大学社会学部紀要』第60号において行っている。

今回の調査に際しては、中京以西の多くの大学の社会学、心理学およびその他の学科目御担当の先生方に多大の御高配と御協力をいただいた。本報告における有効回収票は6639票であり、この6639人のこの調査時点で「現在アルバイトをしている」学生は4048人である。

6639票の出所の大学は以下の29大学であり、本調査報告書で集計、分析した大学は、下記の001から728の頭番号を付した29大学である。なお、1993年10月末に調査票をいただいた聖カタリナ女子大の回収調査票（319票）の全体集計への合算は、今回の報告では時間的に間に合わなかったが、現在、研究分析を継続中の集計データにおいてはすでに合算して分析をすすめているところである。

ここに調査に御協力いただいた大学名を記し、あわせて、御高配、御協力を賜った諸先生方、関

係者各位ならびに調査に参加して下さった各大学の学生さんがたに心から感謝とお礼を申上げる次第である。(大学名掲載順は大学別調査票整理番号による。大学の頭数字はデータファイル作成時の大学番号を示す。)

001関西学院大学 004名古屋大学 005同志社大学  
006竜谷大学 007立命館大学 008奈良大学  
010大阪大学 011関西大学 013大阪市立大学  
014神戸大学 019松山大学 021大分大学 025大阪府立大学  
026愛知教育大学 027福岡大学  
029吉備国際大学 030京都大学 502金城学院大学  
503椋山女学院大学 509奈良女子大学 512大阪女子大学  
515神戸女学院大学 516甲南女子大学  
520山口女子大学 531大手前女子大学  
717大手前女子短期大学 718関西女学院短期大学  
722活水女学院短期大学 278梅光女学院大学短期大学部  
523聖カタリナ女子大学。

## 1. 調査の目的、および今回調査の調査結果概況について

調査の目的については、前回の調査報告、「学生アルバイトに関する実証的研究(その1)―関西学院大学社会学部のケース・スタディー」『関西学院大学社会学部紀要』第60号(1989年10月)125~155頁において既に言及したところであり、ここでは簡潔にこの調査とのかかわりから述べることにする。学生アルバイトを総合的に把握することが最終的な狙いであり、学生アルバイトが日本の労働市場における需要供給関係の中でいかなる状況にあり、その問題点は何かをはっきりさせていきたいと考えている。今回の調査実施から調査回収、データファイル作成までまだ日時が浅いが、今回はクロス集計が主体となり、多変量解析の試みは文末に暫定的まとめとして僅かに行ったにとどまった。調査の全体結果概況を出来るだけ早い機会に報告し公表することが、現段階での我々の責務と考え、ここにその集計結果の提示を行ったわけである。しかし、クロス集計を中心とした分析結果においても、学生アルバイトの実態と学生のアルバイトについての実態と意識は如実に現われており、分析結果はこの分野における資料として大方の御参考になるものと考えている次

第である。

## 2. 調査の対象と方法

- (1)調査対象：上掲のはしがきに記した30大学の在学学生
- (2)調査の方法：調査票は自記法を使用。B4大用紙1枚の調査票にチェックと自由記述を併用した。

調査対象の学生は、社会学、心理学、およびその他の科目の特定学科目の平常の授業時間の出席者とし、その授業時間中に記入を依頼した。調査対象地域を中京地域から近畿、四国、九州と地域的に広くとり多数の大学を調査対象大学と考えたため、大学での学生に対する無作為抽出は手続き上難しく、それにかえてできるだけ多くの大学から調査票記入者を求めることにし、結果的に総計として相当数の調査票数が集るように努めた。

- (3)調査期間：1993年6月~7月(この時期は1年生のアルバイト活動がそろそろ始まる時期か軌道に乗る時期と考えて設定した。)
- (4)調査票の構成：調査票の調査項目は下記の項目群からなっている。①個人属性関係項目、②奨学金受給の有無、③仕事についての状況と労働条件、④アルバイト先での処遇と職場風土、⑤現在のアルバイトに対する態度、⑥アルバイトと学業との兼ね合いについて、⑦アルバイトは将来の職業生活や能力向上に役立つか、⑧アルバイトで得た収入の使途、⑨アルバイト生活全体満足度で、全体で質問数は下位質問(SQ)を含めて39問。なお、調査票は本稿の5.資料(1)調査票において原文を掲載している。

### 3. 調査結果の分析

#### (1)調査結果の概要

全体 総数 6,639 なお、構成比では欠損値を除いている。

調査項目	概要
大学所在地	大都市圏79.8%、地方圏20.2%の構成比。大学別の構成比は国公立大19.9%、私立大63.8%、私立女子短大4.9%である。
学年	1年44.4%、2年32.6%、3年17.8%、4年以上5.3%と4年以上が低い割合の構成比になっているが、これは就職や卒論準備の影響か。
住居	自宅61.4%、自宅外38.6%
性別	男性34.8%、女性65.2%、平成5年版「文部統計要覧によると、大学の学生数に占める女性の割合は、29.3%、短期大学91.7%両方合せた比率は35.7%（いずれも平成4年）となっており、その点では本サンプルの女性の比率が高いという偏りがある。
奨学金支給	受けている9.8%、受けていない90.2%で、受給率がかなり低い。3-別表に関西学院大学の学生部厚生課で調べた奨学金の主要大学の奨学金に関する参考資料を掲示しておく。
アルバイト経験	経験あり78.2%、今回初めて21.8%
アルバイト変更回数	2回まで61.1%、2回以上38.9%
前回のアルバイトの内容	マニュアル（現場作業、運輸・通信、販売、サービス）74.9%、ノンマニュアル（事務、教育、専門・技術、その他）25.1%
現在のアルバイトの有無	ある61.4%、ない38.6%
現在のアルバイト内容	マニュアル67.8%、ノンマニュアル32.3%
アルバイトの情報経路	アルバイトニュース23.9%、広告7.2%、チラシ3.6%、学生相談所1.1%、友人の紹介30.2%、大学の厚生課3.4%、張り紙12.2%、その他17.3%、情報源としてウエイトの高いのは、友人の紹介とアルバイトニュースであり、直接的情報源と間接的情報源がほぼ等しく利用されている。
一週間当たりのアルバイト日数	1日+2日35.8%、3日27.3%、それ以上36.9%、とほぼ三分されている。
アルバイトに行く曜日	主に平日26.7%、土・日が中心20.7%、平日や土・日を含む51.0%、その他1.6%
1日当たりの時間数	2時間以内16.5%、3~4時間32.1%、5~6時間31.1%、それ以上21.3%、アルバイト日数との組み合わせを考えると、かなりの学生がアルバイトに時間を割いているという実態が浮き彫りになる。
継続期間	6ヶ月未満51.3%、それ以上48.7%
勤務の時間帯	午前4.1%、午後（昼間）17.5%、夕方・夜67.2%、深夜4.1%、その他5.6%
時給	500~700円31.4%、701~800円25.9%、801円以上42.7%、半数近くが800円以上の時給でアルバイトしていることが分かる。
1ヶ月のアルバイト収入	2万円未満19.7%、3万円台16.6%、4万円台15.5%、5万円台13.8%、6~7万円台15.3%、8~9万円台7.6%、10~15万円台6.3%、15万円以上1.5%、かなり分散した収入状況になっている。
アルバイト収入が1ヶ月の全収入に占める%	70%未満=41.7%、71~99%=27.2、100%=31.1% アルバイトへの依存率が高いことがうかがえる。

アルバイトへの態度	アルバイトを増やしたい61.8%、今の所考えていない38.2%
勤務地	通学先大学近辺やその市内18.4%、居住地市町村近辺54.8%、通学地点経路16.3%、その他の地点10.6%
時給満足度	満足40.6%、不満40.0%、どちらともいえない19.4%
勤務時間満足度	満足60.0%、不満14.0%、どちらともいえない16.9%
アルバイトは収入の単なる手段	はい32.3%、いいえ44.8%、どちらともいえない22.9%と、アルバイトを単なる収入の手段と考えない割合の方が多くは興味ある反応である。
アルバイトは今後の職業に必要	はい57.8%、いいえ13.6%、どちらともいえない28.6%、前問に関連してアルバイトに意義を認めている者が半数以上いるのが分かる。
その必要理由	社会勉強になる56.5%、人間関係の理解・訓練17.0%、人間形成に役立つ1.8%、稼ぐことの大変さ5.3%、礼儀作法等が身につく5.7%、働く自覚ができる2.6%、忍耐・責任を知る2.3%、その他8.8%
アルバイト収入の用途	学費3.5%、生活費23.0%、遊び代71.9%、衣服代40.6%、教養費17.1%、自動車の購入8.2%、海外旅行費5.6%、その他9.7%、多肢選択で尋ねた各項目の選択率から見れば、学費を稼ぎながら勉学するというかつての苦学のイメージは完全に消えて遊び代を得ることがアルバイトの動機として最高の選択率であることに現代のアルバイトの実態が浮き彫りになっている。
アルバイトは学業の妨げか	はい10.5%、いいえ71.3%、どちらともいえない18.2%、妨げとならないとする比率がこのように高いのは、それだけアルバイトが大学生活に定着していることを示すとともに、大学教育のあり方に一石を投じるデータといえる。
アルバイトのウエイト	アルバイトにウエイトを置く51.4%、置かない14.8%、どちらともいえない33.8%、前問と同様な傾向を示している。
仕事ぶりに正しい評価	はい53.1%、いいえ7.0%、どちらともいえない39.9%
仕事上で考え聞き入れられる	はい46.8%、いいえ16.1%、どちらともいえない37.1%
仕事まかされる	はい55.2%、いいえ12.4%、どちらともいえない32.4%
勤務時間満足度	満足66.4%、不満18.6%、どちらともいえない15.0%
ストレスを感じる	はい31.2%、いいえ50.7%、どちらともいえない18.1%
アルバイトを楽しくやっている	はい64.8%、いいえ8.1%、どちらともいえない27.1%
人間関係	うまくいっている77.1%、うまくいっていない4.7%、どちらともいえない18.2%
通勤便利	はい72.7%、いいえ14.7%、どちらともいえない12.6%
アルバイトは能力向上に役立つ	はい46.6%、いいえ16.4%、どちらともいえない37.0%
卒業までアルバイトを継続	はい61.4%、いいえ16.4%、どちらともいえない22.2%
アルバイト生活全体満足度	満足59.4%、不満15.3%、どちらともいえない25.3%
一連のアルバイトの労働生活に関する項目に対しては、概ね好意的反応を示している。現在の学生のアルバイトへの関わりは一面的ではなく、きわめ多面的であることを示唆している。	